日本オリエンテーリング協会長期事業方針
20 年後にありたい姿

2023 年 4 月

公益社団法人日本オリエンテーリング協会

はじめに

日本におけるオリエンテーリングは、1966 年に導入されて以降 50 年余りが経過した。公益社団法人日本オリエンテーリング協会（JOA）は、その統括団体として、オリエンテーリングの普及及び振興を図り、もってアウトドアスポーツの健全な発展に貢献するとともに、国民の心身の健全な発達に寄与することを目的としている。そのため従来から、普及と社会的認知の向上、選手の育成、競技力と技術の向上、国際協力、そして社会貢献に取り組んできた。さらにこの数年間は、「日本と世界をオリエンテーリングでつなぎます」、「フェアプレーを応援します」、「社会に役立つスキルを広めます」、「オリエンテーリングを楽しむ仲間を増やします」という標語のもとに活動を継続してきた。今後はこれに加えて、未来のスポーツ文化の視点からオリエンテーリングの本質を見つめ、オリエンテーリングによって多くの人々が喜びや生きがいを感じ、人間力の向上が得られることを目指したい。この理念を実践するための、今後 10 年から 20 年の長期にわたって目指すべき行動目標として、以下の 5 項目の柱を設定する。

JOA 長期事業方針の柱

1.オリエンテーリングの価値を発信し、社会に貢献する
2.アスリートを育成・支援し、生涯スポーツを推進する
3.国際交流・協力を推進する
4.組織力と基盤を強化し持続可能な組織とする
5.構成員・支援者を支える

具体的な内容においては、この 5 つの柱は相互に関連し、また重複する部分もある。以下に行動目標の詳細を述べる。

1. オリエンテーリングの価値を発信し、社会に貢献する

オリエンテーリングの価値には　以下のようなものが考えられる。

1）誰もができる、生涯スポーツとしての価値
2）教育的価値
3）地元・地域に与える恩恵
4）環境負荷が少ないこと
5）さまざまな技術・ノウハウ

1)　オリエンテーリングを楽しむ人々の健康に貢献し、かかわる人々が幸福感を感じられるようにしたい。そこにはスポーツ実践による肉体的な健康のみならず、楽しく充実感がある場が提供される、社会とかかわる場、自己実現の場が提供されるという、精神的、社会的な健康も含まれる。参加のみならず、支援するスポーツ、見るスポーツといった多様なかかわり方もできるようにしたい。
2)　オリエンテーリングで育まれる能力には、身体的能力、知的能力以外にも、さまざまなツールの活用能力、自律的に行動する能力、多様な社会における人間関係形成能力、といった生きる力（キー・コンピテンシー）が挙げられる。このような価値が認識されることにより、初等教育から高等教育、社会人教育のすべての場において、オリエンテーリングが教育科目として利用されているようにしたい。
3)　オリエンテーリングには、それを行う場が必要であり、持続可能であるためにはその地域の理解と協力が必須である。そのためにはオリエンテーリング活動が、スポーツツーリズムのように地域の活性化などのメリットをもたらす仕組みを作りたい。
4)　オリエンテーリングは自然環境を利用したアウトドアスポーツであり、環境への負荷が少ないので、この点が広く知られているようにしたい。
5)　オリエンテーリングには、ナビゲーション能力、地図の作成、競技会の運営などの面において、さまざまな技術・ノウハウの蓄積がある。これらを活かし、社会に役立つ貢献をしてゆきたい。
　上記のような価値を有するオリエンテーリングというスポーツが、社会に広く正しく知られていることを目指して、さまざまなアピールを行い、認知度を向上したい。オリエンテーリングの持っている独自の価値が他のスポーツ界からも一目置かれ、さまざまなスポーツ種目との交流が行われているようにしたい。そこから新たな競技種目が生まれることがあるかもしれない。その結果として、マスメディアからも注目され、オリンピック種目に加えられるという状況、日本においてはJOCの承認団体から準加盟団体への昇格、高校生では高等学校体育連盟の種目となっている、などの状況を目指したい。

2.　アスリートを育成・支援し、生涯スポーツを推進する
　世界の舞台で多くの日本選手が活躍し、高い成績を上げ、切磋琢磨していること、そして選手は多くの人のあこがれであり、尊敬される存在であることが期待される。世界に通用するアスリート育成のためには、ジュニア期からの選手育成、潜在的能力のある選手の発掘などの戦略的育成が必要であり、これらが行えるシステム、環境を構築したい。他のスポーツ種目との交流なども有効かと思われる。また、選手指導のためのコーチングのノウハウが確立していると共に、指導者・コーチも日本全国各地で人材が充足し、その社会的地位が確立されていることを目指したい。あこがれである選手はその人格においても尊敬される必要があり、選手・コーチのインテグリティ・コンプライアンス教育、アンチ・ドーピング教育

を継続的に行ってゆく。
一方で、生涯スポーツとして、高齢者も活躍しているような全世代にわたる活動が期待される。どんな年代の初心者も気軽に参加でき、一旦離れた人たちもまた気軽に戻ってこられるような環境を作りたい。さらには、パラスポーツにも参画していることを目指したい。オリエンテーリングは選手間の交流も多く、参加するのみならず運営にかかわるなど「支援するスポーツ」として多様なかかわり方ができるので、コミュニティの醸成に役立つようにしたい。そのために、競技会とそれにかかわるシステムの充実をしてゆきたい。設備やルールが整備され、全国各地で質の高い、誰でもが楽しめる大会が安定して開催され、その運営のためにも多くの人が活躍していることを期待したい。

3. 国際交流・協力を推進する
日本におけるオリエンテーリングの普及発展に寄与するために、世界選手権をはじめとする多くの国際大会に、多くの代表選手が参加して、国際大会を盛り上げているようにしたい。一方で、毎年様々な形での国際大会を日本で開催することにより、世界からの期待に応えたい。特にアジア地区においては、その先駆者、リーダーとなって周辺諸国をサポートしていることが期待されている。また国際協力の面では、IOF 等の国際組織の運営において、役員を派遣し協力するなどの役割を担っていることが望ましい。日本で開発された技術などでの国際協力、情報発信を行ってゆきたい。

4. 組織力と基盤を強化し持続可能な組織とする
組織が適切に維持運営されている状況を作るために、人材育成と財政基盤を確立する必要がある。財源を確保するための施策がなされており、必要なところにお金がかけられる余裕を持てる状況にしたい。また、事務局業務に必要な人材、資材が充足しており、管理がしっかり出来ている状態にしたい。
持続可能な組織であるために、協会の将来を担う人材が豊富で、適材適所で役員が選任・配置されており、次世代の養成システムがあるようにしたい。また、組織としてのコンプライアンスが遵守されているとともに、リスクマネジメントが出来ている状況にしたい。

5. 構成員・支援者を支える
日本全国の会員組織が人材と財政の面で適切に維持運営されているとともに、そのもとで地域クラブが生き生きと活動している状態にしたい。オリエンテーリングを認知している底辺人口を増やし、競技者登録者 10,000 人超を目指すとともに、その人たちが楽しみ・喜びを得られるような施策を構築したい。競技者が安心して参加できるような体制、運営者が安心してイベントを企画実行できるような体制を構築したい。
会員団体である日本学生オリエンテーリング連盟、日本デフオリエンテーリング協会、上位団体である JOC、JPC、JSPO、スポーツ庁、UNIVAS 等、協働活動者といえる学校・教

育関係者、地方行政、スポーツ施設、他の関連するスポーツ団体などと良好な協力関係を構築したい。さらに、利害関係者との Win-Win の関係を構築したい。収益事業として関連事業者の生活が成り立ち、スポンサー、サポーターに対して見返りがあるような状況にするとともに、ボランティアで活動をしている人たちが生きがいを持って活動している状況を作りたい。

以上、現時点で考えている JOA の長期事業方針について述べた。これをもとに約 4 年ごとに中期の事業計画を策定、実践してゆくこととなるが、今後新たな展開、新たな目標が生まれてくることも予想され、約 10 年をめどに方針の見直しを図ってゆきたい。将来構想委員会などを設置することにより、オリエンテーリングの意義・価値の探求と今後の展開について、継続的な議論を続けたい。